

菊の育て方

菊の種類



大菊

厚物、厚走り、管物、一文字、美濃菊、大掴みがあります。



中菊

花径9～18cm位の中輪で、「江戸菊」などの古典菊もこの分類です。



小菊

盆栽や懸崖仕立てなどに使われ、花色や花形はさまざまです。

切花菊(中菊・小菊)の育て方

品種	月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
6・7月咲	定植	病害虫防除	摘蕾	開花				挿し芽	定植	
8月咲	挿し芽	定植	摘心	病害虫防除	摘蕾	開花				
9月咲		挿し芽	定植	摘心	病害虫防除	摘蕾	開花			
10月咲			挿し芽	定植	摘心	病害虫防除	摘蕾	開花		
寒咲				挿し芽	定植	摘心	病害虫防除	摘蕾	開花	

●用土について

〔地植えの場合〕

日当たり、排水の良いところを選び、定植前に腐葉土・ピートモス・乾燥肥料を混ぜ充分耕しておきます。定植間隔は15～20cm程度で、根をまっすぐ下にして、軽く土を寄せます。1ヵ月に1度、乾燥肥料を施し土寄せ（根元1cmの厚さに土をのせる）をすると生育がよくなります。

〔鉢植えの場合〕

肥よくで排水の良い土を用いて、7～8号鉢に1本、9～10号鉢には2～3本植えます。肥料は乾燥肥料を1ヵ月に1回、鉢縁に大さじ2杯程度施します。また生育状態をみながら液肥を追肥してください。

●挿し芽

菊は一般に宿根草とされていますが、根は毎年更新され、根の寿命はほぼ1年です。株を旺盛に生育させて立派な花を咲かせるには、挿し芽から育てた若い苗が適しています。挿し芽用土は無肥で清潔なものがよく、菊専用の挿し芽用土か、鹿沼土とバーミキュライトを1:1の割合で混ぜたものを使用します。

●摘芯・整姿

中輪咲きは定植後10日～2週間目に先端部をできるだけ小さく摘芯してください。脇芽が10cm程に伸び出した頃、小さいうちに摘み取ってください。小輪咲きは摘芯は不要です。

●病害虫防除

菊が病害虫に侵されてから薬剤散布を行っても高い効果は得にくいものです。普段から定期的に行うように心がけます。また、同じ薬品を続けて使用せずに、1つの病気に対して数種の薬剤を交互に散布することをおすすめします。

病害虫名	農薬
害虫	アブラムシ類
	アザミウマ類
	ハダニ類
	アオムシ・ケムシ類
病気	白サビ病
	斑点性病害

大菊の3本仕立て

●3本仕立てに必要な道具

- ・挿し芽用ポリポット ・菊鉢（各サイズ）
- ・仮支柱 ・本支柱（3本仕立て用）
- ・インバイド 3本仕立ての本支柱を固定する道具。
- ・輪台 花の形を整え、支える道具。
- ・アルミ線 3本仕立てに整姿するのに使う。
- ・ビニタイなど

●挿し芽～鉢上げ

〔挿し芽時期〕

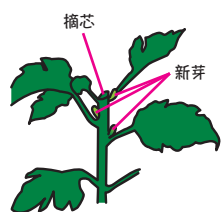
短幹種	4月下旬～5月上旬
中幹種	5月中旬
長幹種	5月下旬～6月上旬

挿し芽用土は無肥で清潔なものを使用します。鹿沼土・川砂・バーミキュライト・ピートモスとククライト（パーライト）小粒を等量混合したものを使用します。

挿し穂を長さ5～6cm位に切り、切り口に発根促進剤をつけて挿します。挿し芽後たっぷり水を与え、半日陰にて管理を行い、徐々に直射日光にならしていきます。

2週間程で発根しますから、無肥料の用土で4号鉢に鉢上げします。活力剤を1000倍に薄めた液を水やり代わりに与え、1週間程で活着しますから乾燥肥料を小さじ1～2杯与えます。

●摘芯



鉢上げ後、10cm位に成長したら、芽先のごく先端を、ピンセットで出来るだけ小さく、米粒程の大きさを摘み取ります。摘芯をする4～5日前に、三枝の分岐の段差を少なくするため矮化剤（ビーナイン500倍液など）を散布しておくとういでしょう。

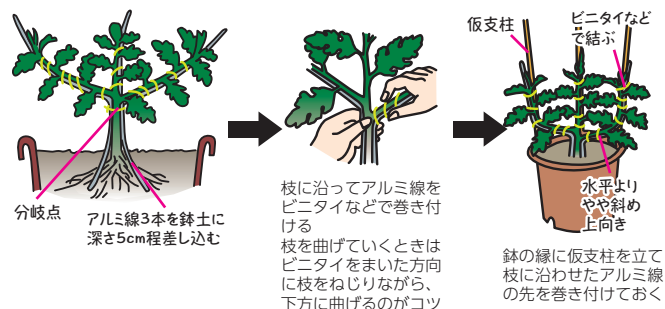
●中鉢移植と三枝誘引～定植

鉢上げ後3週間程で根が詰まってくるので、中鉢（5号鉢）へ移植します。移植後、乾燥肥料を小さじ1～2杯与え、活力剤の1000倍液を数日水やりがわりに与えます。

移植後、三枝の長さが分岐点から12～15cm程になったら誘引を行います。3本仕立ては、3本の脇枝をそれぞれ等分の角度（120°ずつ）をもたせて3方向に広げ、一旦水平近くまで引

き下げた後、支柱に沿って立ち上がらせます。1～2日水やりを控え、少し枝をしおれ気味にしてから曲げると失敗が少ないでしょう。

中鉢移植後20日程で根が詰まってくるので本鉢（9号鉢）に定植します。定植と同時に必ず支柱立てを行います。



●増土と柳芽処理

8月中旬から8月下旬に増土を行います。この時一度に多量の増土を行うと根傷みの原因になります。

8月上旬頃より芽先の生育が止まり、柳芽が発生することがあります。柳芽とは、8月上旬から中旬頃に雨や曇りの日が続くと出てくる不完全な花芽のことです。よく成長した株の茎先に、ヤナギの葉に似た細い葉が出て、中心につぼみのようなものが見えているのが柳芽です。8月下旬まで発生した柳芽は摘み取り脇芽を仕立てます。

●つぼみの選び方

9月上旬よりつぼみが出始めますが、あわててつぼみを1つに整理しないようにしましょう。つぼみには頂点に1つだけつく芯蕾とその脇に車座になっている脇蕾があります。芯蕾が正常な形に大きくなるのを見定めて、順次脇蕾を摘み取り、9月下旬頃芯蕾と脇蕾を1つ残して全部摘み取ります。残った脇蕾は芯蕾から弁が正常に始まるのを見定めてから切り取ります。

●開花期の手入れ

出蕾から開花までの間、菊が最も水を必要とする時期です。水不足は禁物です。3分咲きになったら、雨風はもちろん直射日光にも当てないように注意します。厚物系は3分咲きの頃、管物は7分咲きの頃、花首を支柱に沿ってまっすぐ結びつけ、輪台をつけます。輪台は最初は花首ぎりぎりの高さにつけ、咲き進むにつれて下げていきます。

〔複製〕



アプリ限定クーポンでお得にお買物!!

アヤハディオアプリ 会員募集中!



アヤカ
ポイントも
貯まる!

Point
ポイント
カード
機能

クーポン

最新チラシ

店舗検索

アヤハディオ
ネットショッピング

アプリ
ダウンロードは
こちら▶▶



Download on the
App Store



ANDROID APP ON
Google play

